

## 平成25年度 鉄道・自動車設備投資計画

安全対策とお客様サービス向上に総額約62億円を投入

相鉄グループ

相鉄グループでは、平成25年度（平成25年〔2013年〕4月1日～平成26年〔2014年〕3月31日）において、鉄道事業および自動車事業に対して総額62億円（鉄道事業58億円・自動車事業4億円）の設備投資を実施します。

鉄道事業（相模鉄道株：本社・横浜市西区、社長・小澤重男）では、ホームからの転落防止対策として、内方線付き点状ブロックを順次整備し、視覚に障がいのある方に対するバリアフリー化を図るとともに、安全性の向上を図ります。

また、新型自動改札機の導入や、行先案内表示装置の新設、自動放送装置の改良を行うほか、駅においては統一サインおよび待合室を順次整備し、電車内においては車内照明のLED化を実施することで、より一層のお客様サービスの向上と省電力化に努めます。

なお、JR東日本との相互直通運転に関連する工事については、引き続き、既存車両へのATSPおよびデジタル列車無線化工事等を行い、東急電鉄との相互直通運転については、着工に必要な手続きを進めます。

自動車事業（相鉄バス株：本社・横浜市西区、社長・菅谷雅夫）では、引き続きバリアフリー化推進のため、お客様が乗降しやすい大型ノンステップバス11両を導入します。また、昨年度から導入を始めた携帯電話やパソコン等により、バス停への到着予定時刻などの運行情報をリアルタイムでお客様に提供するバスロケーションシステムを全路線に導入します。

鉄道事業と自動車事業の主な設備投資計画は、別紙のとおりです。



瀬谷駅に設置した待合室（平成24年度設置）



(◎今年度竣工工事・○継続工事)

[鉄道事業] 58億円

1. 輸送力の増強【20億円】

○JR東日本相互直通運転関連・車両改修

JR東日本との相互直通運転に関連し、瀬谷駅改良工事を推進するほか、既存車両について、ATS-Pおよびデジタル列車無線の整備を実施します。

○自動改札機の更新

新型自動改札機の導入に際して、これまでにお客様から頂いたご意見をもとに、お客様の利便性および安全性の向上を図ります。

2. 安全・安定輸送の確保【27億円】

○相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差化事業

天王町～星川駅間の踏切による交通渋滞の緩和や交通安全の確保、周辺道路の整備を図るために、天王町駅と星川駅を含めた約1.8kmを高架化し、9箇所の踏切を廃止します（平成14年度に着手）。

平成25年度は、引き続き工事区間のほぼ全域にわたって、高架橋本体の構築や道路交差点の橋桁の製作および架設等を進めるほか、駅ホームおよび上屋の架設工事も進めます。

◎ホーム転落防止対策工事

ホームからの転落防止対策として、内方線付き点状ブロックを各駅に順次整備し、視覚に障がいのある方に対するバリアフリー化を図るとともに、安全性の向上を図ります。

3. お客様サービスの向上【11億円】

○行先案内表示装置・自動放送装置の改良工事

行先案内表示装置の新設および自動放送装置の改良を行うことで、乗換・待避接続案内・停車駅等のご案内を可能とし、より一層のお客様サービスの向上に努めます。

○統一サインの整備

駅の案内・誘導サイン等をカラーバリアフリーや見やすさ、省電力にも考慮した新しいサインに更新します。平成25年度は横浜駅（2階）・西横浜駅・南万騎が原駅・いずみ野駅・いずみ中央駅において実施します。

○ホーム待合室の新設工事

ホームに待合室を新設することで、お客様サービスの向上を図ります。平成25年度は上星川駅・いずみ野駅において実施します。

○室内灯のLED化工事

電車内の車内照明をLED化することにより、明るい車内を作り、省電力化を実現します。平成25年度は11000系4編成、10000系3編成において実施します。

[自動車事業] 4億円

◎乗合バスの購入（11両）

大型ノンステップバス11両を導入します。

◎バスロケーションシステムの導入

綾瀬営業所、横浜営業所に導入し、全路線で携帯電話やパソコン等により、バス停への到着予定時刻などの運行情報をリアルタイムでお客様に提供し、利便性の向上を図ります。